

3.2 利用方法について 花壇づくりが約45%と最も多く、次いでプランター設置が高い値となった図3-4。菜園づくりは管理主体の公社が団地内の敷地は公共の場のため、私的に利用すること禁止していることもあり、低い値に留まっている。机やイスなどの設置や子供の遊具を置くなどの屋外空間に活動の場を生み出す使い方については極めて少数で、現状では公営住宅の屋外空間の活動の場は菜園や花壇づくりが中心となっていると考えられる。

3.3 利用を始めたきっかけ 場所が空いていた(12%)が最も多く回答が得られ、隣棟間の空地を住民が積極的に利用しようとする意識がうかがわれる。次いで綺麗にしたい(8%)、草抜きの手間を省くため(6%)、汚かった(5%)など、良好な団地景観づくりやメンテナンスに対する意識が緑づくりのきっかけとなることも多い。複数の住民で協力して利用を行う事例は少なく、住民個人の利用が大部分を占めていると考えられる。

3.4 利用場所の要因 利用を始めたきっかけと同様に広い空地が屋外空間の利用場所として考えられる。利用住民の生活の場から近い場所や人通りの多い場所等の住民が日ごろからよく目にする場所を堂々と利用することが積極的に行われる。一方目立たない場所の選択は見られず、隠れて利用するといった傾向は見られにくい。図3-

3.5 屋外空間の利用による生活の変化 個人の楽しみとしての利用が高い値をとっている。また同時に周囲への配慮や掃除を行うようになったなど利用を通して周囲への配慮をするようになった図3-8

4. 菜園利用と花壇利用それぞれの実態

4.1 菜園と花壇の形成場所 菜園づくりは視線の通りにくい空間で見られ、住民の動線空間に面しない空間において形成が見られる。一方花壇づくりは視線が多いアクセス側に見られた。菜園と花壇の形成場所のプロットを見

ると、ベランダ側において菜園の利用が見られる。

4.2 実地調査とアンケート結果 実地調査の結果では、アクセス側において積極的に花壇利用が見られる。アンケート結果を見ると、視線に関する選択肢で差が見られ、目に付きやすい場所を選択して花壇を形成していることから、花壇利用を行っている住民は、目に付きやすい場所を見出し、利用していると考えられる。またアクセス側で形成が見られる花壇利用者の意識は菜園利用者に比べ、図4-1のように美観を意識した利用を心掛けている傾向が見られた

4.2 菜園利用と花壇利用による生活の変化 図4-2のように菜園利用と花壇利用では、利用者が感じる生活の変化に差が見られ、菜園利用では、大きな傾向として、楽しみが増えたと回答した利用者が多く、個人的な趣味の場としての利用が行われている傾向が見られる。これは花壇が団地内を綺麗にしたいなど景観を意識した利用に対して、菜園づくりは利用者自身の趣味的な意味合いが強く、花壇づくりと菜園作りで利用者が感じる生活の変化に差が生まれていると考えられる。

5. 結論

公営住宅の屋外空間では、時間に余裕のある高齢者が個人的に広くとられた空地で菜園や花壇の利用が見られる。多くの利用者は日常的に管理活動を行っており、団地内に活気をもたらしていると考えられる。またこれらの利用は、住民が自らの空間の延長として空地を領有化する場合と団地内の環境や近隣住民の視線を意識した利用が見られる。

既往研究¹⁾ 岩川晋也, 横山俊祐, 徳尾野徹: 公営住宅における自発的な緑空間の形成について 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2, pp113-114, 2009

既往研究²⁾ 横山俊祐: 計画的菜園の有効性一住み手による自発的な集住環境形成に関する研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 pp.223-224 2001

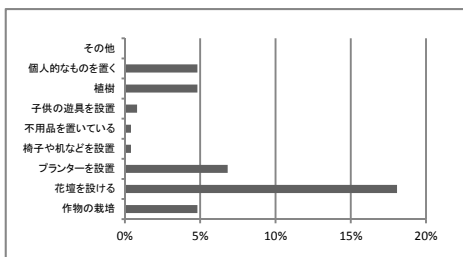


図 3-4 屋外空間の利用方法

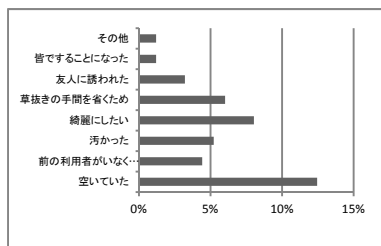


図 3-6 利用を始めたきっかけ

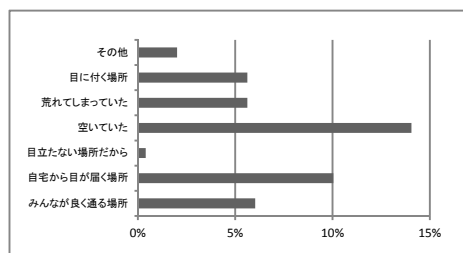


図 3-5 利用場所の決定要因

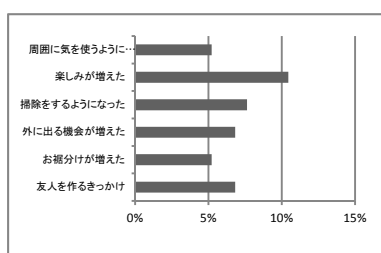


図 3-7 利用による変化

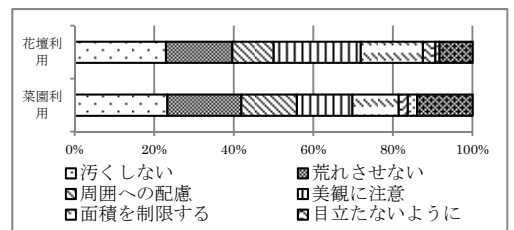


図 4-1 菜園と花壇の意識の違い

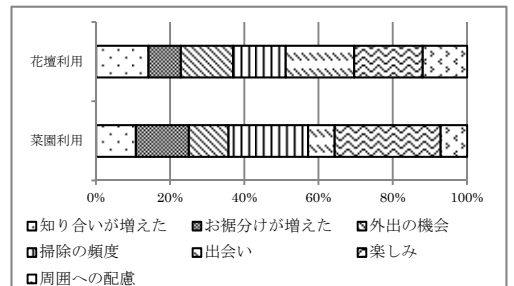


図 4-2 菜園と花壇の変化の違い

*大阪市立大学工学研究科前期博士課程
 **大阪市立大学工学研究科後期博士課程
 ***大阪市立大学工学研究科 教授・工博
 ****大阪市立大学工学研究科 講師・工博

* Master Course, Graduate School of Engineering, Osaka City University
 ** Doctor Course, Graduate School of Engineering, Osaka City University
 *** Prof., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr. Eng.
 **** Lect., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr. Eng.